

病期	生活面	本人・家族	連携	例等
初期 (社会生活に変化).. プレ介護期	<p><b>具体的生活の確認と見直し</b></p> <p>住の確保・安心：安心して住める住居の確保・転居(公営住宅等) 家屋の物理的対応：コンロの電気化、立ち消え防止、室内の簡素化 日常生活(衣食等)の確認、対応：衣類の整理、食事、入浴、トイレ等への今後の備え(参考：NPO「口から食べる幸せを守る会」) 生活設計の確認、変更：住宅ローン(高度障害)の返済変更等 経済面の確認：将来設計(積極的ファイナンシャルプランも含む) 手続等の確認・変更等：銀行：家族カード、郵便局・生命保険(指定代理請求特約)証券会社：代理人手続き 家族信託検討等 仕事の継続・退職・転職への対応</p> <p><b>考えられる社会保障等の手続</b></p> <p>自立支援医療、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、傷病手当金、障害年金 雇用保険等 介護保険申請検討</p>	<p><b>本人・家族の生活の確認、見直し</b></p> <p>本人の想い、希望、話を聞く <b>本人の記録(書面、動画等による記録等)</b> 社会参加の場(本人・家族含む) 本人・家族の支援になる人との出会い <b>本人・家族の相談場所の確保：本人の集い、家族会等(インターネット、本人・家族等著作の本多数あり、それも参考にしてください)</b> 家族(子どもも含め)への開示説明 親戚への開示・説明 職場等への開示説明(家族も含め) 仕事・働くことへの再確認 家族の凝集性：楽しみ、旅行等</p>	<p><b>信頼できる医師・医療機関、生活を相談できる医療者の確保</b> 開業医・物忘れ相談医・専門医(診断機関)・認知症疾患医療センター <b>医療ソーシャルワーカー(かかっている病院の)</b> <b>若年性認知症コーディネーター(各県に最低1人はいる)</b> <b>会社</b>：人事部(総務部)、産業医、ハローワーク 障害者職業センター <b>地域</b>：認知症支援推進員、保健師、精神保健福祉センター 銀行、郵便局、生命保険会社、(公財)生命保険文化センター 生命保険協会、 家族会、友人、知人、親戚、近所、ボランティア(ボランティアセンター) <b>相談機関：若年性認知症コールセンター、難病情報センター、若年性コーディネーター、認知症初期集中チーム、地域包括支援センター、若年認知症サポートセンター、障害者就業・生活支援センター</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンロの立ち消え防止等で、料理作りの継続</li> <li>・出社止めされていたが、給料等の保障制度がわかり、会社との交渉へ変化したケース</li> <li>・投資信託等から、現金化</li> <li>・家族で旅行</li> <li>・精神科ディに通う意味の理解</li> </ul>
中期 (日常生活に変化)	<p><b>本人・家族が安心できる生活・療養場所の確保</b></p> <p>本人の居場所：患者会、認知症カフェ、就労継続支援A・B型 精神科ディケア ディケア/ディサービス 楽しみ：本人の会、本人・家族同士の外出・旅行、 認知症フレンドシップクラブ等</p> <p><b>経済面の確認・見直し</b></p> <p>住の確保、各種社会保障制度の活用(精神障害者保健福祉手帳、障害年金、難病医療費助成、介護保険申請等) 手当金、奨学金(子ども)、経済面での手続き方法の確保、 家族信託 等申請</p> <p><b>介護支援(家族への支援含めて)</b></p> <p>实际的、濃厚な介護への支援、施設・医療機関等の支援も含む(ショートステイ・レスパイトケア等も)</p> <p><b>社会保障等の確実な手続き</b></p> <p>自立支援医療、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、傷病手当金、障害年金 介護保険申請等</p>	<p><b>本人・家族の生活の再構築</b></p> <p>療養環境の整備、 本人の社会参加の場の変更・拡充(本人の居場所作り) 配偶者・子どもも上記と同様 相談場所の確保(本人・配偶者・子ども・親・親族等)：家族会等 夫々の時間の確保 家族の健康状態の確認(定期検診等) 一人外出に備えての対応：近所への開示説明、身元等が判るもの。スマートフォン等の活用、(位置情報、写真等) 家族の凝集性：楽しみ、外出、旅行等</p>	<p><b>専門医療機関との連携。在宅医療機関との連携</b> 認知症疾患センター、認知症治療病棟、かかりつけ医、訪問看護等 <b>ネットワークづくり(本人・家族を支援する)</b> 若年性認知症コーディネーター、医療ソーシャルワーカー、地域包括支援センター ケアマネージャー、民生委員(児童委員)、ヘルパー等 <b>サービス機関・制度の拡充・多様性</b> ディサービス、デイケア(介護保険・精神科)、小規模多機、グループホーム、老人保健施設、特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者住宅、有料ホーム。役所(障害福祉課、児童福祉課等) 障害者自立支援法、手当金、障害年金、患者・家族会、認知症カフェ、年金事務所、社会福祉協議会、成年後見センター、消費者生活センター、子ども家庭支援センター、児童館、子どもの学校、スクールソーシャルワーカー、交番、本人が通うところ(コンビニ、図書館等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者会等への本人参加 仲間が出来る</li> <li>・介護保険の申請</li> <li>・行く場所が見いだせない</li> <li>・家族の対応の増加、疲労</li> <li>・トイレ、整容等の変化</li> </ul>
後期 (身体状況に変化)	<p><b>ターミナルステージを念頭にした療養・生活場所の検討(長期のターミナルステージも含む)</b></p> <p>医療確保：かかりつけ医 訪問診療、訪問看護、認知症専門医 <b>生活面で考える事、行う事</b> 療養の仕方・場の選択：家、施設、療養型病院等 本人/療養の終結への見守り、どこまで医療行為を行うか、胃瘻等 <b>社会保障等の確認・変更</b> 各種制度の見直し、活用：介護保険の区分返納、障害年金の等級変更、生命保険高度障害の申請等、 家族の生活の確認、再構築、</p>	<p><b>本人への説明・話しかけ。確認</b></p> <p>どのように生を終結したいのか どのようなその時を過ごしたいのか 何を残したいのか 周囲はどのようにサポートするのか 問題はどのようにサポートするのか スピリチュアルケア・死生学</p> <p>家族への支援(心理・社会的)</p>	<p><b>ターミナルステージを念頭においた医療環境整備</b> かかりつけ医 訪問診療、訪問看護、専門医(認知症治療病棟含む) 療養型病院、医療ソーシャルワーカー <b>サービス機関・制度の拡充・多様性</b> ディサービス、デイケア(介護保険・精神科)、小規模多機、グループホーム、老人保健施設、特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者住宅、有料ホーム。役所(障害福祉課、児童福祉課等) 障害者自立支援法、手当金(特別障害手当金)、障害年金、患者・家族会、認知症カフェ、年金事務所、社会福祉協議会、成年後見センター、消費者生活センター、子ども家庭支援センター、児童館、子どもの学校、スクールソーシャルワーカー、交番、本人が通うところ(コンビニ、図書館等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の形態の変化、</li> <li>・嚥下等の心配</li> </ul>
備考				